

資料整理の現場から

四国災害アーカイブスは、本日7月20日から、部分運用第二弾として、これまでの地震・津波の情報に加えて、土砂災害、渇水の情報も提供します。平成24年7月20日に部分運用を開始しましたので、ちょうど一年になります。さらに、来年4月からの本格運用に向けて、収集した資料の整理や現地調査による写真撮影、位置情報の確認などの作業を進めているところです。今回は資料整理の現場で感じていることなどをお伝えします。

文献資料などの情報の整理にあたっては、原資料を生かすことを原則としています。文献資料などには各執筆者の努力や思いが込められていますので、原文を大切にしたいと考えているからです。ただし、資料に書いてあることをそのまま転記しているではありません。書かれている内容が事実なのか、論理的におかしいところはないのか、誇張表現はないのかなどを、できるだけ他の資料や地図などと照らし合わせて確認した上で、アーカイブスに掲載する内容を整理しています。災害発生日や単位などが明らかに間違っている場合には修正を行い、その旨を備考欄に記載しています。

資料整理の過程では興味深い資料に出会うことが多いのですが、以下ではこれまでに出会った印象深い資料を各県一つずつご紹介します。

徳島県の「川島町史 上巻」(川島町史編集委員会編、1979年)の災害年表は、町史編集実行委員が徳島県災異誌等をもとに川島町(現吉野川市)関係の災害を抽出し、町内4寺院の協力を得て、過去帳をもとに死者や被害の状況等を整理して作成しています。災害年表は郷土史や他の文献からの引用によりつくられていることが多いのですが、視点を変えた独自の調査により実態を把握しようとする姿勢や努力は見習うべきものと感じます。

香川県の「農林業の石碑～先人の遺業をしのぶ～」(香川県農林部編、1981年)には、県内の農林業関係の石碑の写真と碑文が掲載され、碑文が漢文の場合には解釈文も添えられています。県内各地に分布する石碑の調査・集録には1年を要したようですが、とても良い仕事をされていると思います。こうした記録が残されるからこそ、災害やそれに対する人々の取り組みの歴史を知ることができます。

愛媛県の「西条市防災100年誌」(西条市市民安全全部危機管理課編、2009年)は、災害の記憶を孫子の代まで語り伝えたいという思いで作成されています。災害体験談や写真が掲載され、災害の様子を生々しく伝えています。また、現在の西条市を形成する西条市、東予市、丹原町、小松町の旧4市町を横並びにして自然災害年表をつくっています。これは、合併した市町の災害の様子や災害の広がりを確認する時にも活用することができます。

高知県の「南国市史 下巻」(南国市編纂委員会編、1982年)は、災害の状況が具体的に描かれているだけでなく、災害時の防災対応、住民の動き、災害後の取り組み、今後の課題などがまとめられていて、災害を将来に活かすための編集の仕方がされています。読み手に事実を伝えるだけでなく、今後災害にどのように立ち向かっていったらいいのかを考えるきっかけを与えています。

これ以外にも興味深い資料がたくさんあります。一つ一つの資料にあまりに興味を持ちすぎると、本格運用の時間までに作業を終えることができなくなりますので、とりあえず好奇心はほどほどに抑えながら作業をしているところです。